

# エアバッグ類車上作動処理用防護シート導入促進事業 2019年度事業報告

公益財団法人自動車リサイクル高度化財団

## 1. 背景・目的

使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）において、解体事業者は、使用済自動車（以下「ELV」という。）のエアバッグ類を「取外回収<sup>※1</sup>」することが義務付けられている。

※1「取外回収」： ELVに装備されているすべてのエアバッグ類を取り外し、引取基準に従って自動車メーカー等に引き渡す方法。

他方、自動車メーカー等と委託契約を締結することで、再資源化の行為として、上記の取外回収ではなく、「車上作動処理<sup>※2</sup>」を行うことが認められており、これによって、取外回収に比べ作業時間を短縮化でき、自動車メーカー等に引き渡すための管理も省略できる。2018年度発生エアバッグ類付ELV約276万台の内、車上作動処理が80.1%を占めており、処理方法として定着している。

※2「車上作動処理」： 車両に装備されたままの状態に通電しすべてのエアバッグ類を強制的に作動させる方法。

冠水車等についてエアバッグ類の車上作動処理を行おうとすると、異常作動により筐体が破裂して車外に飛散し、作業員や事業所施設に被害を及ぼす危険がある。しかし、近年の自然災害の多発に伴い、冠水車等についても安全かつ効率的な車上作動処理を実施したいとの希望が解体事業者の間で高まっていた。

こうした状況を踏まえ、自動車リサイクル法において自動車メーカー等が義務付けられているフロン類・エアバッグ類の引取・破壊・再資源化に関する各種業務について自動車メーカー等からの委託を受けて運営を行っている一般社団法人自動車再資源化協力機構（以下「自再協」という。）では、ノーベル工業株式会社<sup>※3</sup>（以下「ノーベル工業」という。）との共同設計により、エアバッグ類の解体作業時に簡便に使用できる「エアバッグ類車上作動処理用防護シート」（以下「防護シート」という。）の開発を進めていた。公益財団法人自動車リサイクル高度化財団（以下「当財団」という。）は、この取り組みを自動車リサイクルの高度化等に向けた喫緊の課題への対処として早急に必要な事業と位置づけ、自再協と連携のうえ自主事業としての実施の検討を進めた。その結果、この防護シートが、冠水車等であることを原因として車上作動処理時に異常作動が発生した場合であっても、作業員及び施設の安全を確保し、円滑な車上作動処理の実施に資するものであると認め、その開発及び普及を推進するための業務を実施することとした。

※3 ノーベル工業株式会社： 自再協では、上記の危険を防ぐためには防弾チョッキと同等の機

能を持つ素材が現実的であると判断したが、防弾チョッキで使用されるアラミド繊維を取り扱える事業者は、市場が小さいことから国内でも限られており、高価になり過ぎずに少量生産が可能である製作会社を探して、技術的に可能な複数業者に打診したところ、仕様を満たす製品を製作できる業者はノーベル工業のみであったため、同社を選定。

## 2. 当財団が実施した業務内容

### ● 防護シートの普及に向けた購入費用の補助



導入のための費用負担を軽減して普及を促進するために、ノーベル工業から防護シートを1セット470,800円（消費税込み）で購入した事業所に対し、400,000円の購入費用補助を行った。補助を行うに当たっては、補助対象として適切な解体事業所であることを確認するための審査を行った。解体事業所との連絡及び審査に関しては、自再協からアドバイザーとして協力を受けた。

※ 自再協及びノーベル工業が開発を進めた防護シート（運転席用及び助手席用で1セット）の最終の仕様について三者間で確認・合意の調印を行った上で、防護シートの製造及び販売はノーベル工業が行った。したがって、当財団は、防護シートの製造及び販売には関与していない。

## 3. 防護シートの仕様

### (1) 防護シートのサイズ、重量、装着方法

運転席用・助手席用のセットで販売

部位	サイズ	重量	装着方法
運転席	1600 mm × 680 mm	約 3.5 kg	 <p>ハンドルを覆い、バンドをシートバックの真ん中付近まで引きおろして固定</p>
助手席	2600 mm × 1340 mm	約 8 kg	 <p>助手席部分をしっかり覆えるよう車両フロントガラス外部にシートを掛けドアに挟み固定</p>

## (2) 防護シートの構成

- ・内装： 運転席用・・・破片等の飛散防止（車内）、助手席用・・・破片等の飛散防止（車外）

（エアバッグ類異常作動発生時に飛散する金属片が強い破壊力で車外へ飛散する可能性も考えられることから、防弾チョッキに使用されるものと同じアラミド繊維を使用。）

- ・外装： 内装シートの保護及び位置ずれの防止

（エアバッグ作動時の発熱に鑑みて難燃材料を使用。また撥水加工済み。）

## (3) 使用方法の説明

防護シートを安全に使用するためには、正しい方法で使用する必要があることから、納品の際に取扱説明書及びクイックマニュアルを同梱するとともに、説明用動画を自再協のウェブサイトに掲載して当該動画を参照する際に使用する QR コードをクイックマニュアルに掲載した。

<取扱説明書（A4判 20 ページ）、クイックマニュアル（A3判両面）>



<説明用動画>

[http://www.jarp.org/duties/protective\\_sheet\\_movie.html](http://www.jarp.org/duties/protective_sheet_movie.html) に掲載

## 4. 購入費用補助の状況

1,317 の車上作動処理契約事業所へ周知を行い、2019 年度は 63 事業所に購入費用補助を行った。

事業所規模別及び都道府県別の購入状況を以下に示す。

<事業所規模別>

車上作動処理台数（直近12ヶ月）	購入事業所数	車上作動処理契約事業所数	比率
超大規模…5000台～/年	22	136	16.1%
大規模…500～4999台/年	27	456	5.9%
中規模…100～499台/年	8	366	2.1%
小規模…99台以下/年	6	359	1.7%
<b>合計</b>	<b>63</b>	<b>1,317</b>	<b>4.8%</b>

<都道府県別>

都道府県	購入事業所	車上作動処理契約事業所	比率
北海道	4	89	4.5%
青森県	0	25	0.0%
岩手県	0	22	0.0%
宮城県	4	34	11.8%
秋田県	1	19	5.3%
山形県	1	16	6.3%
福島県	0	42	0.0%
茨城県	4	41	9.8%
栃木県	2	35	5.7%
群馬県	1	21	4.8%
埼玉県	2	53	3.8%
千葉県	5	80	6.3%
東京都	2	18	11.1%
神奈川県	3	48	6.3%
新潟県	3	30	10.0%
富山県	0	15	0.0%
石川県	0	13	0.0%
福井県	0	8	0.0%
山梨県	1	14	7.1%
長野県	0	25	0.0%
岐阜県	2	35	5.7%
静岡県	1	32	3.1%
愛知県	0	65	0.0%
三重県	1	34	2.9%

都道府県	購入事業所	車上作動処理契約事業所	比率
滋賀県	0	10	0.0%
京都府	1	32	3.1%
大阪府	0	26	0.0%
兵庫県	3	43	7.0%
奈良県	0	10	0.0%
和歌山県	1	14	7.1%
鳥取県	2	10	20.0%
島根県	0	7	0.0%
岡山県	2	21	9.5%
広島県	0	28	0.0%
山口県	0	19	0.0%
徳島県	0	9	0.0%
香川県	0	19	0.0%
愛媛県	1	21	4.8%
高知県	0	11	0.0%
福岡県	3	50	6.0%
佐賀県	1	13	7.7%
長崎県	1	18	5.6%
熊本県	0	26	0.0%
大分県	0	25	0.0%
宮崎県	2	27	7.4%
鹿児島県	3	26	11.5%
沖縄県	6	38	15.8%
<b>合計</b>	<b>63</b>	<b>1,317</b>	<b>4.8%</b>

## 5. 2020 年度の取組予定

事業終了年度である 2020 年度は、自再協による以下の取組を通じて更なる普及に努めることを予定している。

- 自再協ウェブサイトへの情報掲載
- 販売促進チラシ作成・周知実施
- 監査訪問時、資料案内による販売促進
- 購入業者へのヒアリングによる訴求ポイントの洗い出し
- 解体組合等での製品紹介

以 上